

## 新しい観光

沖縄県立浦添商業高等学校 2年生 米蔵 友梨

あなたがもし県外の人だとします。「さあ！これから沖縄へ旅行に行こう！」という事になりました。どこへ行きますか？沖縄で観光といえば、美ら海水族館や国際通り、アメリカンビレッジ、きれいなビーチへ行こうよ！となるのが定番だと思います。しかし、リピーターの人が多い沖縄旅行では、この定番コースでは、あきてしまうんじゃないかと思えます。この事から、観光地を巡る他に県外や国外の観光地と差をつけ、今まで以上に観光客数を上げる為には他にはない取り組みをする必要があると思えます。

そこで私が考えたのは、もっと観光客と私達沖縄の人が関わりを持ち沖縄に旅行で訪れた方に「沖縄は他の観光地とは違って地域の人との関わりがあって良かったよね。次はどこに行く？」と提供いただけるような取り組みをしたら良いと思えます。

その理由は、私が中学生の時に修学旅行で訪れた九州がきっかけです。学習として見学をした資料館や中華街も楽しかったですが中でも一番楽しくて三年たった今でも鮮明に覚えているのが地域の方達との何気ないお話しだったり初めて会うのに大爆笑するぐらいお喋りしたことです。また、九州よりも人も多くて遊ぶところが多い東京よりも地域の人との関わりがあった修学旅行で訪れた九州の方が「また行きたい！」って思えるような体験ができたからです。

他の地域と差をつける取り組みの1つとして私が通う浦添商業高校の国際観光科が行っている「修学旅行生おもてなしプラン」があると思えます。

この取り組みは、県外の修学旅行生を私達、浦添商業高校の生徒が沖縄の伝統楽器「三线」を一緒に練習して楽しんだり、「サーターアンダギー」を作ってお喋りをしたり、学校の近くにある港川外人住宅を案内したり浦添城跡を私たちがガイドとして案内をする取り組みです。

今は県外の修学旅行生がターゲットとなっていますが、いずれは一般の観光客や那覇空港国際線の第二滑走路による国外からの観光客増加にも対応できるようになればいいなと思えます。この取り組みを私達学校だけではなく他の学校も取り組めばより良いプランやおもてなしを求めお互いに高めあえて、どんどんレベルが上がって最高の「おもてなし」を観光業で働く大人だけではなく、沖縄の未来を担う私達学生でも沖縄の観光業に貢献できるのではないかと考えています。また、学生のうちに少しでも観光業という仕事に触れることができ、企画をし、それを実行することができ自分の将来に活かすことができると思えます。

修学旅行生の受け入れ数は1回のおもてなしプランに付き、今のところは100名程ですが、これから更にパワーアップをしていけば1回の受け入れでもっと多くの人数ができると思えます。そして、このプランにさんかしてくれた観光客がリピーターになれば、もっと多くの観光客が来てくれると思えます。また、英語や中国語、韓国語で私達がおもてなしができるようになれば海外からの観光客にも柔軟に対応することができると思えます。

これらのことから、沖縄の観光で定番コースを巡る普通の観光よりは地域の人との関わりを大事にし他の観光地とは少し違った旅行を観光業で働く人や沖縄の未来を担う私達学生が提供をすることができれば、更に国内や国外からの観光客が増え、新しい観光コースができるのではないかと思えます。